

学校における危機管理 ～児童生徒の安全のために～

千葉県公立高等学校事務職員会
君津支部研究グループ

発表者

千葉県立君津高等学校
副主査 角 田 良 一

1 はじめに

大阪教育大学付属池田小学校の事件、大阪府寝屋川市立中央小学校の事件をはじめとする、学校への不審者侵入事件は、児童生徒の安全を脅かした事件として、社会全体に大きな影響をあたえました。

不審者の校内への侵入だけでなく、学校の内外におけるさまざまな事件、事故は日常的に報道されています。これら顕在化された事件、事故だけでなく、潜在化されている要素も多様に抱え込んだ現代社会にあって、いつ起こるとも限らない事件や事故から、いかに児童生徒の生命を守るか、いかに学校を守るか、ということを強く考えずにはいられません。

予算執行、施設管理、人事給与事務、情報公開と個人情報の保護、接遇など、私たち事務職員がかかえる様々な実務の中で、何よりも優先されなければならないのは、児童生徒の命を守ること、児童生徒の安全を確保することではないでしょうか。

この観点から、私たちは、学校における「危機管理」をテーマに研究を進めることにしました。当初はあまりに漠然としていて、どこから手をつけてよいやら見当がつかないという暗中模索の状態でしたが、まず自分たちが「実際に体験した危機」を挙げ、それらを一つ一つ検証してみることにしました。

その中にこそ、机上論の危機管理ではなく、実体験に基づいた危機管理のヒントが隠されているにちがいない、と考えたからです。

つづいて、それらを、不審者侵入の危機、登下校の危機、校内の急病人・怪我人発生の危機、スクールバス運行における危機などに、大きく分類しながら、各分類における、危機管理すべき項目をすべて挙げて、「危機管理（リスクマネジメント）」の手法、ならびに「マネジメント・サイクル（PDCA）」の手法を用い、更には数値による行政評価を加えて、事務職員としての危機管理に具体性を持たせる取り組みをしてみました。

あっ！ 不審者 どこからでも・・・



（来客用玄関）



（生徒昇降口）

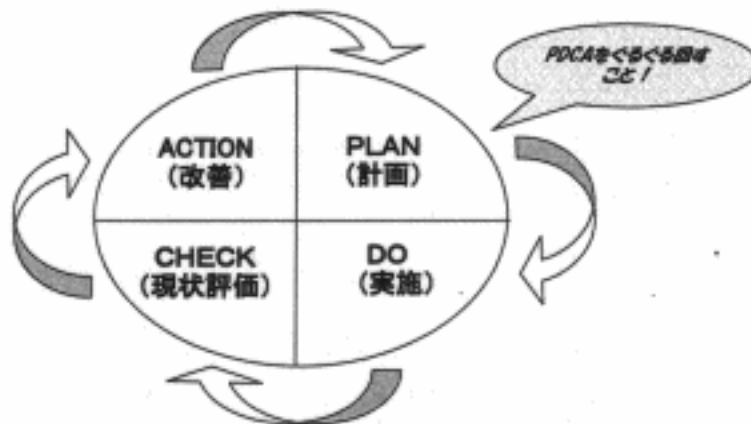
2 実 際 に 発 生 し た 事 例(110件の事例より抜粋)

No	発 生 し た 事 項			対 応 内 容 等	結 果	反 省 点 等
	時間	場所	内 容			
1	夜	窓 口	隣接住民より、「生徒が塀を越えて出入りしている。さらに、塀を壊して出入りしている。」そして、「駐車場で酒盛りをしている。いつも散らかしっぱなし。」「タバコの吸殻が散乱している。」「どのような指導をしているのか?」「すぐに現場を見にこい。」との苦情を受ける。	教員は授業中のため、事務職員が対応した。その後、生徒指導部職員が対応する。	当事者同士ではなく、警察の立会いを求める。	複数対応を心がける。
2	日 中	学 校	大音量のオートバイが校内に侵入し、学校周辺を行ったり来たりしている。	生徒指導担当が監視を続け、あまりにひどいときは警察に通報する。	ほとんどが逃げられてしまう。警察でも対応に手を焼いているようで取り押さえても効果がない。	門扉などを閉めてはいけな いものか確認をしたい。
3	休 日	校 舎 内	不審者が侵入してきた。	発見した教員が追いかける。	逃げられる。	出入口の施設確認、不必要な場所の施設を行う。
4	日 中	玄 関 前	不審車両が侵入してきた。	職員が監視し、ナンバーを調べたが、解明不能であった。	出て行った。	警察に通報すべきかどうか判断基準を確認したい。
5	朝	校 内	シナー常用者が登校する生徒に紛れて侵入。(女子生徒に会いに来た)	取り押さえ、警察に通報する。	警察につかまった。	登校指導の再検討。
6	日 中	敷 地 内	暴走族が侵入し、傘立てなどを壊した。対応の教員に暴力をふるう。	過剰防衛とならないよう応戦しなかった。	対応した教員は歯を折るなど怪我を負った。	過剰防衛等の基準を確認したい。
7	下 校 中	電 話	生徒が事故にあった(ひき逃げ)という連絡を受ける。	すぐ担任に電話をつなぐ。担任は現場に行き、生徒の搬送を行う。事務職員は病院などの連絡を行う。	生徒は怪我で済んだが、犯人は見つからない。	とっさのときに、車のナンバー等を覚えておくなど事前指導が必要。
8	放 課 後	電 話	変質者(露出狂)が女生徒に道を尋ねるふりをして車で近づいてきたと携帯電話で連絡があった。	教員が現場に向かう。ナンバーを警察に連絡する。	間もなく警察につかまった。	緊急を要するときは、110番通報を勧める。
9	(夏季休業中) 日 中	電 話	部活動終了後下校途中の生徒が倒れた(部活動中にも軽度熱中症で倒れていた)。	教頭が対応した。顧問は帰宅途中で連絡がとれなかった。	長期間意識不明。一時、慰謝料請求の語があったが、意識回復し無事決着。	顧問の熱中症への意識の徹底を行う。緊急連絡方法の確保をする。
10	夕 方	電 話	駅で生徒が嘔吐している。タバコを吸っている。	生徒指導担当に連絡をする。	確認がとれなかった。	生徒指導の徹底をする。
11	夕 方	電 話	生徒が小学生を叩いた。	お詫びをする。生徒指導担当に連絡をする。	無事決着する。	生徒指導の徹底をする。
12	土 曜 日	陸 上 橋 の	生徒が倒れた。(インシュリンをうっている生徒)	119番通報する。	無事回復する。	生徒の健康状態のデータ保管場所の把握。
13	日 中	電 話	半日授業の午後学校に爆弾を仕掛けたとの電話があった。	110番通報する。職員で校内監視を行う。	いたずらだとわかる。刑事に一言一句確認された。	録音装置があった方が良かった。
14	日 中	窓 口	卒業生の保護者(精神障害者?)が清掃をしたいと申し出て来校した。(学校に迷惑をしないとのこと)	下重にお断りをしたが納得しないため、敬頭含む複数で対応する。	一応得った。	複数対応が望ましい。
15	昼	校 内	近所の精神障害者が学校に入り込み、校内をうろうろした。	教頭が警察に連絡をする。	警察で保護してもらう。	
16	昼	校 内	生徒が4階から落ちた。	連絡を受けた事務職員が救急車を依頼したが、詳細わからず救急隊の質問の対応に苦慮する。	病院に搬送し、治療を受けた。[骨折だった]	救急車を呼ぶときのマニュアルの整備。
17	日 中 真 冬	グ ラ ン ド	工事の作業員が急病で倒れる。(市に使用許可した災害関係施設の建設中)	119番通報する。	死亡、現場検証、検死を行う。	心肺蘇生の訓練の必要性。
18	朝	校 内	生徒がテニスの朝練中に竹が足にささる。(自分以外は未出勤)	足と竹をそのまま布で縛り病院へ搬送する。	大量出血は回避した。	救急法の訓練の必要性。職員の連絡体制の整備。
19	日 中	校 内	職員が応接室から体調不良を訴える電話がある。	様子を確認し、病院へ搬送する。	病気により夕方手術になった。	
20	日 中	窓 口	スクールバス後部と自家用車前部の軽微な接触事故を起こした。バス側は気付かず走り、被害者が学校まで追跡し、窓口に來校した。	事務長と当該バス運転手が被害者に玄関で対応する。	修理費を負担する事で決着。修理の金額が正当なものか業者を確認をした。	安全運転の徹底を指導した。
21	日 中	電 話	「体育祭の準備の音がうるさい。いつまで続くのか」という苦情があった。	体育祭実施予定日を話す。教頭に内容を連絡する。	以後、同一人物からの電話はない。	学校として事前に近隣に周知すべきであった。
22	日 中	窓 口	グラウンドから道路に飛んできたゴルフボールが、走行中の車にあたり、へこみができたと窓口に來校。	事務長が対応する。被害者の車のディーラーにて修理を行う。修理費の請求は学校へしてもらう。	修理費を負担する事で決着した。修理費金額が正当なものか業者に確認する。	学校側の目撃者無。発生内容の確認方法をどうすればよいか。もし、法外な請求をされたときはどうすればよいか。
23	日 中	窓 口	自分で切貼りした教育関係の新聞を買ってくれと來校。	事務長が対応する。予算がないので断る。	一応得った。	対応マニュアルの整備。
24	日 中	窓 口	来客者の名刺を窓口に預け、返却時に汚して返したとクレームがあった。名刺は預かった時点で汚れは付着していた。	その場で断る。	一応決着した。	受領の際に確認をする必要がある。
25	日 中	学 校	通学時や作業中に生徒(知的障害)が行方不明になった。	家庭連絡をし、地域分担による職員で捜索を行う。	交通機関や立回り先からの通報により発見された。	生徒の動静の把握を徹底する。

3 君津地区「危機管理」の研究発表の全体観

実際に経験してきた数多くの事例を基にしながら、児童生徒の安全を確保するために、なされなければならぬ様々な危機管理を明確にするとともに、その中で事務職員として取り組むべき事項を浮き彫りにし、その遂行をマネジメント・サイクル(PDCA)によって政策評価していく。

(1) 学校全体や一人ひとりが、取り組むべきこと マネージメント・サイクルを回す



P	PLAN (計画)	改善方針を具体化し、次年度の 実行計画を策定する。
D	DO (実施)	計画に沿って政策を実施する。
C	CHECK (現状評価)	得られた成果を評価し、課題を 検証する。
A	ACTION (改善)	評価結果を受け、課題に対する 改善方法を検討する。

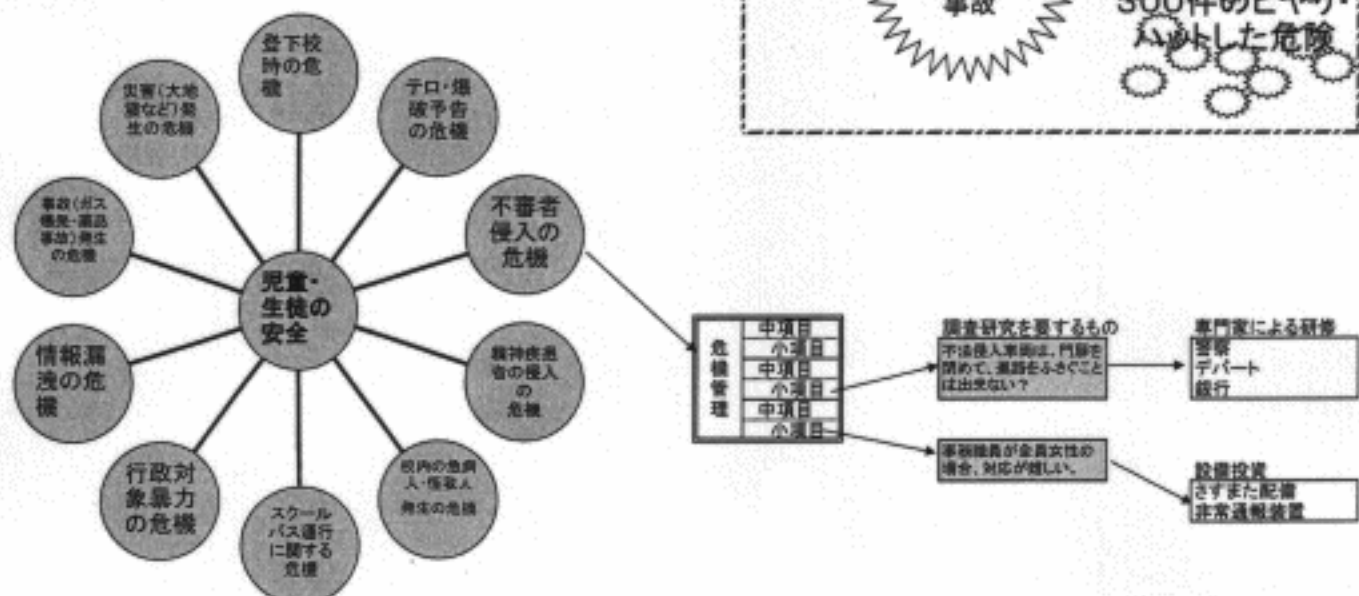
(2) 危機管理(リスクマネジメント)の手順

(1) 危険の発見	・自分の職場にどのような危険があるか洗い出す
(2) 危険の損害 の測定	・危険の内容を評価・分析する ・危険の発生する可能性のある頻度と危険による損失の 程度を測定
(3) 危険処理手 段の決定	・危険発生の予防と軽減 ・危険処理手段の決定(リスクコントロール) ・危機管理計画
(4) 危機発生時 の対応	・事実とその内容の確認 ・現場の対応、関係先への連絡 ・緊急事態に対する方針、方針決定 ・緊急対策本部の設置 ・緊急事態の原因と安全対策の調査 ・情報開示とマスコミ対策
(5) 危機管理の 事後対応	・原因の究明と再発防止対策 ・危機管理対策の評価 ・補償問題、責任問題の検討 ・住民関係先への報告と説明

危機管理(リスクマネジメント)の進め方

P	リスクマネジメントの必要性 リスク特定化(発見)と分析 目標の設定、対策の検討
危機管理マニュアルの策定(全体方針、個別計画)	
D	危機対応シミュレーション
C	危機管理マニュアルのメンテナンス
A	

(3) 事例を基に分類し、マネジメント・サイクルとリスク・マネ ジメントの手法を用いて、さらに行政評価してみる



(1)《不審者侵入の危機》

➤

上表を基に追加すべき項目		事 柄	危機管理すべき事項(申請項目)	危機管理すべき事項(小項目)
2	不審者の侵入(人的被害あり)	連絡体制の確保 現場対応 緊急避難経路の確保 緊急対応 関係者の通行可否 関係者の心のケア 生体・関係者の心身のケア 説明責任(アカウンタビリティ) 原則として不審者の侵入(人的被害あり)に同じ 不審者の確保	(暴走族の侵入に同じ) 職員の迅速急行 連絡対応(制止行動) 防犯隊員の運用 (暴走族の侵入に同じ) 通称担当者を事務所等に常駐させる 凶器の有無 生徒への被害状況 対応職員の様態等の被害状況 施設設備への被害状況 保護者への連絡(被害者) (暴走族の侵入に同じ) (暴走族の侵入に同じ) (暴走族の侵入に同じ) (暴走族の侵入に同じ) (暴走族の侵入に同じ)	
3	不審者の侵入(人的被害なし)			不審者の確保 警察への連絡・引き渡し

4 休日時の不審者の侵入	原則として不審者の侵入(人的被害あり)に同じ
5 施設・物品に対する被害	通称体制の確保 第1次対応(連絡・報告) 安全性の確保
6 車両の侵入	第2次対応(連絡・報告) 緊急時の侵入に同じ
7 通称・数人による騒動者の侵入	不審者の侵入(人的被害あり)に同じ
8 変質者の侵入(人的被害あり)	不審者の侵入(人的被害あり)に同じ
9 変質者の侵入(人的被害なし)	不審者の侵入(人的被害なし)に同じ

さまざまな危機に対応できるように、中項目と小項目をまとめ、危機管理の現状をチェックする

PLAN		
大項目	中項目	小項目
不審者侵入の危機	予防策	校門及び周辺の警備(校門の故障はないか、備置は整定されているかなど) 来客出入り口を限定する(校門の施錠など) 来客の完全掌握(防犯カメラ設置、チャイム設置など) 来客受付席・入校許可証の設置 職員や警備員による学校内外の巡回 学校周辺の書店・住民との連携(不審者発見の情報提供など) 不審者侵入の対応マニュアルの整備
	マニュアル	
	訓練	訓練の実施
	事後対応	不審者発見、事件発生時の第一報(伝言、校内放送、大気警報発報など) 職員の現場急行 直接対応(制止行動) 防犯カメラ(盗撮した、監視カメラなど) 写真撮影 不審者の身柄確保(ロープ、網など) 警察への連絡・引き渡し
	不審者の身柄確保	
	通称通称体制の確保	現場と管理職員の連絡(伝言、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 現場と事務室の連絡(伝言、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校内関係部署に連絡(伝言、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(怪我) 通信手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電話番号の一覧 関係機関連絡先一覧 事務室・教務室以外の場所も、外線番号可視にする
	救急	医療救護、保健主事の現場急行 怪我人の応急処置 救急病院への搬送 被害者の家族、保護者への連絡 避難場所の安全確保 生徒の避難経路を確保し、誘導
	緊急避難経路の確保	緊急の事態を念頭に置いた通称体制確保(警備員・教務職員との連絡・通報体制、その他)
	緊急対策本部の設置	千葉県教育庁(教職員課管理室)への第一報、連絡、説明 千葉県教育庁(教職員課管理室)に確認しながら指示を仰ぐ(マスコミ対策を念頭に) 教育事務所への第一報、連絡、説明 通称担当者(事務室)に常駐させる
		現場の状況を掌握(凶器の有無) 現場の状況を掌握(生徒への被害状況、人質はいないか) 現場の状況を掌握(対応職員の怪我等の被害状況) 現場の状況を掌握(施設設備への被害状況) 現場の状況を掌握(車両番号、車種等特長の把握)
	事後対応:授業続行の判断	生徒の安全の確保 授業の続行、休校の判断
	事後対応:生徒の下校手続	保護者に連絡(保護者の連絡先を問う) 保護者に連絡(連絡がつかない場合の対応) 全員の帰宅を確認
	事後対応:説明責任(アカウンタビリティ)	マスコミ対策 保護者の関係(事実の説明) カウンセラーの配置
	事後対応:生徒・職員の心のケア	学校医の協力

※ 部分は事務室で危機管理できる

4. 学校における危機管理のマネジメント・サイクル(PDCA)と行政評価
(2)《テロ・爆破予告の危機》

発生内容	いつ 場所 内容	日中 電話 電話による電話 電話に通報
対応内容		いたずら 被害等の被害調査

基本型	事 務	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
1	種別予口	電話予告	災害マニュアルの作成 災害時の連絡を要する設備 被害被害の位置 避難経路 119番通報
		不審物の発見	発見者からの連絡方法 現場の保存 連絡経路 119番通報
		爆弾	被害状況の掌握(けが人) 被害状況の掌握(施設) 119番通報 112番通報
		緊急対策本部の設置	千葉県教育庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 千葉県教育庁(設備施設管理課)への第一報、連絡、説明 用約教育事務所への連絡 千葉県教育庁(教職員管理課)に確認しながら指示を仰ぐ(マスコル対策を念頭に)
		施設改修中の措置	教室の確保(プレハブ設置) 備品の増設(備品の使用) 施設の確保 備品の購入
		生徒・教員の心のケア	カウンセラーの配置 学校医の協力
		説明責任(アカウンタビリティ)	保護者会の開催(要請の説明) マスコル対策

上掲各条に追加すべき項目	区 別	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
2 飲料水への毒物混入	日常の管理	見水位置の確認 見水位置誤への混入防止 見水位置の確認 緊急時対応隊への混入防止 水質検査の実施(日常) 水質検査の実施(定期)	見水位置の確認 見水位置誤への混入防止 見水位置の確認 緊急時対応隊(構内) 119番通報 110番通報
	毒物混入		
	緊急対策本部の設置		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 牛浜地区庁(牛浜保健課保健係)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡
	生徒・教員の心のケア		(連絡サロに同じ)
	説明責任(アカウンタビリティ)		(連絡サロに同じ)
	通報手段の確保		緊急時対応隊(構内) 119番通報 110番通報
3 空気部密性毒物の散布	毒物散布		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	緊急対策本部の設置		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	生徒・教員の心のケア		(連絡サロに同じ)
	説明責任(アカウンタビリティ)		(連絡サロに同じ)
	通報手段の確保		緊急時対応隊(構内) 119番通報 110番通報
4 テロリスト侵入	テロリスト侵入		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	緊急対策本部の設置		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	生徒・教員の心のケア		(連絡サロに同じ)
	説明責任(アカウンタビリティ)		(連絡サロに同じ)
	通報手段の確保		緊急時対応隊(構内) 119番通報 110番通報
5 説明者の侵入	説明者の侵入		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	緊急対策本部の設置		牛浜地区庁(教職員管理課)への第一報、連絡、説明 教育委員会への連絡 (連絡サロに同じ) (連絡サロに同じ)
	生徒・教員の心のケア		(連絡サロに同じ)
	説明責任(アカウンタビリティ)		(連絡サロに同じ)
	通報手段の確保		緊急時対応隊(構内) 119番通報 110番通報

定まらぬ状態に対応できるように、中項目と小項目をまとめ、危機管理の現状をチェックする

大項目		中項目	小項目
テロ行為に対する危機	予防策		校門及び校庭の警備(校門の警備はなかった。警備は行われているかなど) 来客出入り口を狭くする(校門の警備など) 来客の完全警備(付帯カメラ設置、チャイム警備など) 来客先付着・入校許可証の設置 電話給電装置の設置 警備要員の配置を厳格化する設備 職員や警備員による学校内外の巡視 学校周辺の警備・監視との連携(不審者発見の連絡員など) 校舎内での監視設備
	マニュアル		マニュアル整備 訓練の実施
	避難		不審者発見、事件発生時の第一報(伝言、校内放送、必要時給電警備など) 機銃や発砲機の実演訓練(機銃、メカ)
	危機発生時の連絡、現場対応		職員の役割分担 必ず事前に教職員に職員の役割 関係者の連絡体制 施設の状態 周辺にいた生徒の状況 現場状況の連絡
	通信連絡体制の確保		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧 事件発生時の連絡(伝言、無線機、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	危機発生現場の救助体制		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	不審者の身柄確保		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	救急		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	緊急避難経路の確保		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	緊急対策本部の設置		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	学校による事後現場の事後		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	事後対応:捜査機関との連携		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	事後対応:生徒の下校手配		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
	事後対応:施設管理中の施設整備		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧
事後対応:生徒・職員の心のケア		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧	
事後対応:説明責任(アカウンタビリティ)		校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 校長と専任教員の連絡(伝言(本人か関係の職員)、内線電話、校内放送、ハンドマイク、携帯電話、無線機など) 110番通報(非常通報装置) 119番通報(伝言) 遠隔手段の確保(携帯電話等) 職員の携帯電報機の一覧 緊急連絡網の一覧	

(3)《登下校中の危機》

質問		
質問内容	いつ	下宿途中
	場所	豊島区西
	内容	生活が事実にあった。(ひと通り)
対応内容		すぐ結核に罹病した。現在は生活が楽。事業家は病院などの連絡を行う。
結果		現在は健康で済んだが、別人は見つからず。
注意事項		

基本型	要 素	生産管理すべき事項(中項目)	生産管理すべき事項(小項目)
1	生産が事象にあった(10点満点)	原因の究明・通学路の検知・海難・船舶の被害	消費量の事情説明・防衛 域内関係者の連絡 関係機関 通学路の変更 船員・生徒・通学者に通知 関係機関(警察等)に連絡 必要箇所の整備 通学路表 乗船前と下船後両方に整備できる乗船簿の設置 乗船前と下船後両方で記録できる付録式乗船簿 船員名簿・生徒名簿設置 関係機関連絡先一覧設置 船員の携帯電話番号の一覧 生徒名簿含め設置 乗船券への連絡・乗船履歴 船員名簿に生徒の乗船履歴を記録 生徒名簿に生徒の家族電話番号を記録
		通信連絡体制(学校側)	関係機関連絡 船員の姓平綴 乗船の時間 携帯電話・テレホンカードの所持数 伝呼装置等の設置 緊急発生時の連絡 乗船への連絡の記録 電子版付の乗船履歴用紙でマニュアル作成
		通信連絡体制(生徒側)	船員・生徒の記録
		迅速な通報の準備	マスコット型 マスコット型
		マニュアル	
		訓練	
		乗船乗客(マスカット型)	

上表を基に追加すべき項目	要 領	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
1	夏季休業中の緊急動員時(下校途中の生徒が倒れた) (緊急動員にも対応可能で稼働していた)	緊急時の対応体制 運動の欠席・通学路の検討・指導・通知の徹底 通学連絡体制(学校側) 通学連絡体制(生徒側) 迅速な現場の駆けつけ マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	危険の発生状況等の把握 被害のない足数計測の有無 応急処置 緊急時の手配 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 救急車到着の確保 救急手配の確保 下校時の急病発生対応マニュアル作成 緊急時の応急処置マニュアル作成 (ひとまげに同じ) 保護者の関係(保護連絡) アカウンタビリティ
3	土曜日に急病が倒れた(インフルエンザをうつっている生徒)	運動の欠席・通学路の検討・指導・通知の徹底 通学連絡体制(学校側) 通学連絡体制(生徒側) 迅速な現場の駆けつけ 緊急連絡等との連携 生徒の応急 マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	(ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 生徒側の緊急発生時の対応 生徒側の緊急発生時の対応 (緊急動員体制あたりに同じ) 生徒への連絡 治療を行っている医療機関 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 保護者の連絡確保・指導 校内関係者の会議 関係人への連絡 生徒への連絡 通学手配 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 保護車到着の確保 救急車への対応(生徒・通学路等の確保) 関係の学校への連絡 (ひとまげに同じ)
4	生徒が小学生を叩いたと聞かされた苦情電話	運動の欠席・指導の徹底 通学連絡体制(学校側) 生徒の現場の駆けつけ 緊急連絡等との連携 マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	保護者の連絡確保・指導 校内関係者の会議 関係人への連絡 生徒への連絡 通学手配 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 保護車到着の確保 救急車への対応(生徒・通学路等の確保) 関係の学校への連絡 (ひとまげに同じ) (小学生を叩いた苦情と同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 指導人の対応・関係機関との連携確保 現場への連絡 保護者が所属する関係自治体との連携 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ)
5	生徒の現場の連絡	運動の欠席・指導の徹底 通学連絡体制(学校側) 通学連絡体制(生徒側) 迅速な現場の駆けつけ 緊急連絡等との連携 マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	(ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 指導人の対応・関係機関との連携確保 現場への連絡 保護者が所属する関係自治体との連携 (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ)
6	実習者(音楽関係)が盗品したと被害電話から連絡	運動の欠席・通学路の検討・指導・通知の徹底 下校時等の確保 通学連絡体制(学校側) 通学連絡体制(生徒側) 迅速な現場の駆けつけ 緊急連絡等との連携 マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	下校時等の確保 被害で次の対応のすすめ 犯罪アザー捜査のすすめ (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 110緊急通報の徹底 身体ナンバー等を把握 生徒全員に学校の緊急発生連絡 (生徒の緊急連絡と同一) 警察へ対応(パトロール等) 警察等への連絡の徹底(休日・夜間等) 関係行政への協力依頼(警察等) 生徒の保護者連絡アザ (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 説明 (実習者出席と同一)
7	生徒が現場からいなくなる連絡	運動の欠席・指導の徹底 下校時等の確保 通学連絡体制(学校側) 通学連絡体制(生徒側) 迅速な現場の駆けつけ 緊急連絡等との連携 マニュアル 訓練 説明責任(アカウンタビリティ)	下校時等の確保 被害で次の対応のすすめ 犯罪アザー捜査のすすめ (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 110緊急通報の徹底 身体ナンバー等を把握 生徒全員に学校の緊急発生連絡 (生徒の緊急連絡と同一) 警察へ対応(パトロール等) 警察等への連絡の徹底(休日・夜間等) 関係行政への協力依頼(警察等) 生徒の保護者連絡アザ (ひとまげに同じ) (ひとまげに同じ) 説明 (実習者出席と同一)

対象となる地盤に対応できるように、中項目と右項目を求め、危機管理の優先度をエスエスとする

[illegible]

(4)《精神障害者の侵入の危機》

★女子学生に好評のファッションアイテムとして、中国語と小道具を兼ね、勉強時間の短縮も期待できる。

「精神障害者からの苦情」

これを定めた立場に照らすと、中議員と小議員を区別し、各議員の同僚を区別する。

4. 学校における危機管理のマネジメント・サイクル(PDCA)と行政評価
(5)《校内の急病人・怪我人発生の危機》

時刻	いつ	日中	夜	日中	夜中、日中
発生内容	いつ	校舎	校庭	応接室	校庭
内容	生徒が4階から落ちた	生徒がテニスの練習中に竹が足にささる(自分以外は未出動)	職員が応接室から体調不良の電話	様子を確認 病院へ	工事の急病が原因か不明(中に受診可能な児童関係者の確認)
対応内容	事務から救急車依頼詳細わからず要請	足と竹をそのまま布で縛り病院へ	様子を確認 病院へ	119番通報	
結果	一応済んだ(良かった)	大量出血は回避	病状により夕方手術	死亡、意識不明、搬送	
反省点等	内容の確認に要請			心臓停止	

基本型	事 例	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
1	授業中の怪我・病気(生徒・児童)	怪我人発生の連絡(校内の連絡)	近くの職員や生徒が出動に要する(職員室や保健室や事務室へ)
		現場の救助体制	内線電話 内線電話一覧を明示 携帯電話 保健室または応接室の職員を現場に派遣 授業科目・時間・場所・発生時の状況 授業科目・時間・場所・発生時の状況 二次被害の恐れがある場合、避難 怪我人・病気の発生 他の生徒の体制 応急処置のマニュアル 応急処置のマニュアル 応急処置のマニュアル
		救急車要請	救急車要請マニュアル 119番通報 救急車誘導体制 救急車同行体制
		緊急対策本部の設置	千歳市教育庁(教職員課管理室)への第一報、連絡、説明 千歳市教育庁(教職員課管理室)に確認しながら指示を仰ぐ(マスコ対策を全額に)
		現場の事後	怪我人・病気の発生現場との連絡・指示 連絡担当者(事務室)に常駐させる 校内配置図で場所の確認 生徒名簿で受傷生徒を確認 受傷生徒の保護者に連絡 保護者に連絡 関係機関(保健所・消防等)に連絡 保護者の関係(事実の説明) マスコ対策
		説明責任(アカウンタビリティ)	

上表を基に追加すべき項目	事 例	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
2	ガス漏洩による怪我	緊急対策本部の設置	警備との連絡・調整 マスコとの連絡・調整 情報収集(時間・場所・発生時の状況) 情報収集(発生人数は多いか) 情報収集(保護者との連絡はとれたか)
3	時間外等の怪我・病気	怪我人・病人発生の連絡	近くの生徒が伝言による 管理室への連絡(必要に応じて出校依頼) 関係職員への連絡(担任・顧問・教員・教務主任等)
		現場の救助体制	応急処置の要請 関係機関への連絡 他の職員への応急体制依頼 生徒名簿で受傷生徒を確認 受傷・発病生徒の保護状況について関係職員または担任・顧問に確認 受傷・発病生徒の保護者に連絡(または、連絡依頼) 救急車要請(生徒に協力してもらう) 救急車に到着先を確認する 救急車による搬送先との連絡 状況報告(管理室・担任または顧問)
		現場の事後	授業中の怪我と対応 保健室または応接室の職員を現場に派遣 近くの職員による応急体制を要請 関係等連絡 保健室等により既知など確認 工事関係者への連絡 関係責任者への連絡
4	職員の病気	病人発生の連絡(校内の連絡)	
5	工事職人の病気	病人発生の連絡	

さまざまな危機に対応できるように、中項目と小項目をまとめ、危機管理の現状をチェックする

PLAN		
大項目	中項目	小項目
校内の急病人・怪我人発生の危機	怪我人・病人発生の連絡	職員・生徒の緊急時の連絡体制(どこに何を連絡するか) 内線電話の一覧 生徒へ学校の電話番号の周知 職員・生徒の連絡先の一覧 管理室の緊急連絡先(携帯電話)の把握 職員の所属不在時の所在明記(特に保健室)
	現場の救助体制	職員・生徒の救急法の研修 現場への携帯電話の携行 担架・救急セットの用意 応急処置マニュアル(学校医含む) 応急処置のマニュアル 応急(傷病)の処理等
	救急車要請	救急車要請マニュアル(要請の判断基準) 救急車要請マニュアル(要請の方法) 救急車誘導体制 救急車同行体制
	緊急対策本部の設置	事務室に常駐する連絡担当の体制 千歳市教育庁(教職員課管理室)への第一報、連絡、説明、説明責任の確保 千歳市教育庁(教職員課管理室)に確認しながら指示を仰ぐ(マスコ対策を全額に)指示の確保 怪我人・病人発生現場との連絡・指示体制 警備との連絡・調整体制 マスコとの連絡・調整体制 必要に応じて関係機関(時間・場所・発生時の状況) ×(怪我人・病人は誰か) ×(保護者との連絡はとれたか)
	現場の事後	職員の派遣体制(校内) 職員の派遣体制(校内の職員が少ない場合の出校依頼) 校内配置図で必要な要請の要請(誰でもわかるように) 職員名簿・生徒名簿の設置 職員・生徒の位置関係 職員・生徒の緊急連絡先の確保・一覧の設置 最新の地図 職員・生徒の緊急連絡先の確保(管理室等)に周知(管理室等)に周知(誰でもわかるように) 携帯電話・スマートフォン・パソコン 関係機関(保健所・消防等)連絡一覧
	日常の指導体制	担任・顧問不在時の連絡の確保 緊急時の連絡方法の確保 健康状態の把握 応急処置のマニュアル 応急処置のマニュアル カウンセラーの配置 学校医の協力
	事後対応:心のケア	
	事後対応:説明責任(アカウンタビリティ)	保護者の関係(事実の説明) マスコ対策

※ 部分は事務室で危機管理できる

4. 学校における危機管理のマネジメント・サイクル(PDCA)と行政評価
(6)《スクールバス運行に関する危機》

名称	いつ	日中
発生内訳	乗客	窓口
内容	スクールバス後部と自衛隊前部との間隙に挟まれ、バス側は気付かず学校区間まで被害者が進歩した。	
対応内容	事故発生と連絡。バス運転手が被害者に応答して対応。	
結果	被害者を負傷する事なく済んだ。	
改善点等	安全確認が必要。	

基本型	事 故	危機管理すべき事項(中項目)	危機管理すべき事項(小項目)
1	交通事故	事故発生時の通報連絡手段と経路 (山間部、田舎地帯の場合はどうか)	全職員が携帯電話を所持 全職員がアンフォニカードを所持 全職員が現金(小額)を所持 経路の点検・住宅の緊急連絡簿 他の通行車両(相手の運転免許を所持)に依頼する 緊急連絡先一覧をスクールバスに所持 110番、119番通報
	事故発生時の連絡	事故現場への連絡	学校に連絡 運転手の関係 介助員の関係 関係の恐れがある場合、警察 事故の状況の対応 事故の予防体制
	事故現場の救助体制	緊急対策本部の設置	上 児童教育科(教職員管理運営)への第一報、連絡、報告 下 児童教育科(教職員管理運営)に連絡しながら指示を仰ぐ(マスコに助けを求めに)
	事故による事故現場の整理	事故現場のバスとの連絡・指示	連絡担当者事務局に連絡する 発着の時刻で車両の管理 スクールバス運行表で乗車生徒・乗降生徒を確認 職員を派遣(学校から職員を派遣) 職員を派遣(付近に居住する職員を派遣) 職員を派遣(付近を走行中の職員を派遣) 職員の携帯電話番号の一覧 職員の住所録 発着の時刻
	緊急代替輸送体制の確保	緊急代替輸送体制の確保	職員全員が、バス等を知っていること 乗車中の生徒を輸送(学校から職員を派遣) 乗車中の生徒を輸送(付近に居住する職員を派遣) 乗車中の生徒を輸送(付近を走行する職員を派遣) 乗車中の保護者に連絡(保護者の携帯電話) 乗車中の保護者に連絡(保護者の自宅) 本員の乗車時刻(乗車中の交通事故の場合) 本員の乗車時刻(下校時の交通事故の場合)
	バス修理期間中の代替輸送体制の確保	バス修理期間中の代替輸送体制の確保	緊急スクールバス委員会の関係 代車による派遣 貸ったスクールバスだけで派遣 乗降生徒数のバスを派遣し派遣 保護者による派遣 町民利用のバス 保護者による派遣 関係機関(本町入居施設)に依頼 関係機関(本町入居施設)に依頼 関係機関(本町入居施設)に依頼 マスコ関係

上乗車を追加すべき項目	危険回避すべき事項(中項目)	危険管理すべき事項(小項目)
2 バスジャック	緊急対策本部の設置	乗客との連絡・指導 マスコミとの関係・取組 関係機関(消防・警察・地産時の状況) 関係者への説明(人災といえるか) 関係者へ知らせているのは誰か 関係者に伝えられないか 関係者間(乗客等)との連絡はとれたか 交通事故の発生と同じ
3 スクールバス運行中(前)にパンク・燃焼	交通事故の発生と同じ	交通事故の発生と同じ
4 交通渋滞(道路凍結)により運行に支障、燃料不足	交通事故の発生と同じ	交通事故の発生と同じ
5 スクールバス待機中の生徒・保護者が暴動、急病		対応する 道路をさせてバスを運行 対応
6 スクールバス運行中に運転手が急病		バス運行中止 運転免許を持っている職員を派遣しバス乗渡 対応する 道路をさせてバスを運行
7 スクールバス運行中に急病が急病		対応する 道路をさせてバスを運行
8 スクールバス運行中に自然災害(大地震等)が発生した		短時間で速く、平穏な指示を出す 乗客への避難誘導 バスの被害状況 周辺道路の状況 保護者への生徒の到着しどどこで行おうか そのまま学校に生徒を連れてくるかどうか 職員の派遣の必要性 地震後の教室内容を確認

多岐な危機に対応できるように、中項目と小項目を求め、危機管理の現状をチェックする

[illegible]

5. 学校における危機管理のマネジメント・サイクル（PDCA）と行政評価

具体的な危機を想定しPLANを作成していく中で、私たちは、どの分類においても共通している事柄が非常に多いことに気がつきました。つまり、基本的な危機管理ができることが、様々な危機管理にも生かされるということです。言いかえると、基本ができなければ、様々な危機に対応することはできません。また、各分類における危機管理の表において、事務職員としてやるべき事柄を明確にすることができました。それらをまとめてみたのが下表です。さらに、事務職員としてやるべき事柄について、その達成度を数値で表して行政評価を試みることにしました。（P 3 参照）

大項目	中項目	PLAN 小項目	DO			CHECK		大項目評価
			行なった	確認した	未対応	小項目評価	中項目評価	
学校における危機管理	予防策	校門及び周辺の警備（校門の警備はないか、警備は制定されているかなど）	5			5	22	62.9%
		不法侵入拒否の警備設置	5			5		
		来客出入り口を限定する（裏門の施錠など）	5			5		
		来客の完全掌握（防犯カメラ設置、チャイム設置など）	5	1		1		
1不審者侵入の危機	マニュアル	来客受付簿・入校許可証の設置	5			5	4	80.0%
2テロ・爆破予告の危機		職員や警備員による学校内外の巡回			0	0		
3登下校中の危機		学校周辺の書店・住民との連携（不審者発見の情報提供など）		1		1		
4精神障害者による危機		不審者侵入の対応マニュアルなどの整備	4			4		
5校内の急病等発生時の危機	訓練	職員・生徒・保護者・関係機関の合同訓練	3		0	0	8	53.3%
6校外・山間部等での危機		応急処置の訓練	5			5		
		電話受付けメモの作成及び回答		1		1		
		電話内容の録音		1		1		
	窓口対応	対応場所の特定（窓口、応接室等）		1		1	3	15.0%
		緊急連絡方法の確保（電話、非常ボタン等で対応）		1		1		
		相手の持ち物の確認（凶器、不審物の所持等）			0	0		
		必要に応じ録音機等の用意（防犯カメラの設置も）		1		1		
危機発生現場からの第一報と通信連絡体制の確保（校外、山間部の場合も含む）		危機発生現場からの110番（非常通報装置）、119番通報		1		1	37	56.9%
		保護者の有無を確認（校内・校外）	5			5		
		周辺道路の状況を確認（校外）		1		1		
		携帯電話を携行（校内・校外）	5			5		
通信連絡体制の確保（対策本部、事務局）		テレホンカードを携行（校外）		1		1	56	86.2%
		公衆電話用の現金（小銭）を携行（校外）		1		1		
		内線電話で連絡（校内）	5			5		
		無線で連絡（校内・校外）		1		1		
危機発生現場の救助・応急・状況掌握		ハンドマイクで連絡（校内・校外）		1		1	77	96.3%
		走って連絡（校内・校外）	5			5		
		周囲の者に連絡を頼む	5			5		
		校外では他の通行車両（相手の連絡先を掌握）に依頼する		1		1		
緊急連絡先の一覧をスクールバスに携行		緊急連絡先一覧をスクールバスに携行	5			5	81	95.3%
		事務職員不在時も事務局以外で受信・発信できる電話機や切替装置の設置	5			5		
		事務局・教務室以外の箇所も、外線発信可能にする		1		1		
		管理職員に連絡（緊急連絡先の把握）	5			5		
緊急対策本部の設置		校内関係者に連絡	5			5	81	95.3%
		最悪の事態を念頭に置いた連絡体制確保	5			5		
		職員が不在時の所在明記（特に保護室）	5			5		
		必要に応じ全体に緊急放送	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		事務局からの110番（非常通報装置）、119番通報	5			5	81	95.3%
		内線電話の一覧	5			5		
		職員名簿・生徒名簿（住所録）設置	5			5		
		関係機関連絡先（教育庁、関係官公庁、生体入所施設等）一覧設置	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		職員・生徒緊急連絡先（携帯電話番号等）の整備・一覧を事務局に配置	2			2	81	95.3%
		生徒写真台帳設置	3			3		
		発見者による救助	5			5		
		さすまた等防衛用具の使用・準備	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		不審者の進路をきくために門扉を開めるかどうかの判断（P35のQ&A参照）	5			5	81	95.3%
		不審者の写真を撮影するかどうかの判断（P35のQ&A参照）	5			5		
		暴力をふるわれた場合の対応：正当防衛の判断（P35のQ&A参照）	5			5		
		救急車手配をしたか確認	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		警察への通報をしたか確認	5			5	81	95.3%
		応接職員の派遣（校内）	5			5		
		応援職員の派遣（校外に、近隣居住職員を派遣）	5			5		
		警備隊・保護主事の派遣	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		医療関係機関の一覧（学校関係含む）	5			5	81	95.3%
		担架・救命セットの常備	5			5		
		職員全員が、通学路やスクールバスの停留所を知っていること（職員派遣のため）	2			2		
		危機発生現場に、携帯電話・テレホンカード・小銭持参	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		現場の状況及び記録（カメラ・筆記具）	5			5	81	95.3%
		現場処理及び処理内容の記録	5			5		
		電話内容の録音		1		1		
		テレビ等発表の周辺災害内容を確認	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		校内配置図で場所の確認	5			5	81	95.3%
		授業時間表等で担当授業・クラス確認	5			5		
		気象庁発表の自然災害内容を確認	5			5		
		最新の地図で場所（校外の危機発生現場）の確認	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		スクールバス運行表で乗車生徒・待機生徒を確認（バスの事故など）	5			5	81	95.3%
		千葉県教育庁（教職員課管理室）への第一報、連絡、説明、事故報告	5			5		
		千葉県教育庁（教職員課管理室）に確認しながら指示を仰ぐ（マスコミ対策を全面に）	5			5		
		教育事務局への第一報、連絡、説明	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		情報整理（時間・場所・発生時の状況）	5			5	81	95.3%
		情報整理（人質はいないか）	5			5		
		情報整理（脱出ルートはどこからか）	5			5		
		情報整理（乗車しているのは誰か）	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		情報整理（保護人はいないか）	5			5	81	95.3%
		情報整理（施設の使用状況）	5			5		
		情報整理（保護者との連絡はとれたか）	5			5		
		情報整理（保護者の連絡先はとれたか）	5			5		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		避難場所の安全確保		1		1	2	20.0%
		生徒の避難経路を確保し、誘導		1		1		
		授業の進行可否か		1		1		
		安全の確認		1		1		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		危機発生現場からの代替輸送（職員車両派遣、代車、タクシー等）		1		1	2	20.0%
		修理期間中の代替輸送（青少年施設のバスを借用、代車等）		1		1		
		修繕期間中の代替輸送（青少年施設のバスを借用、代車等）		1		1		
		校内関係者の安全	3			3		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		現場捜査	3			3	9	60.0%
		危険箇所の把握	3			3		
		応急処置		1		1		
		救急車の手配		1		1		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		職員・生徒の健康監視情報の保管場所の把握		1		1	1	20.0%
		カウンセラー配置		1		1		
		学校医の協力		1		1		
		説明責任（アカウンタビリティ）		1		1		
緊急連絡先の一覧（学校関係含む）		マスコミ対策		1		1	2	20.0%
		保護者の同意（事実の説明）		1		1		
		保護者の同意（事実の説明）		1		1		
		保護者の同意（事実の説明）		1		1		

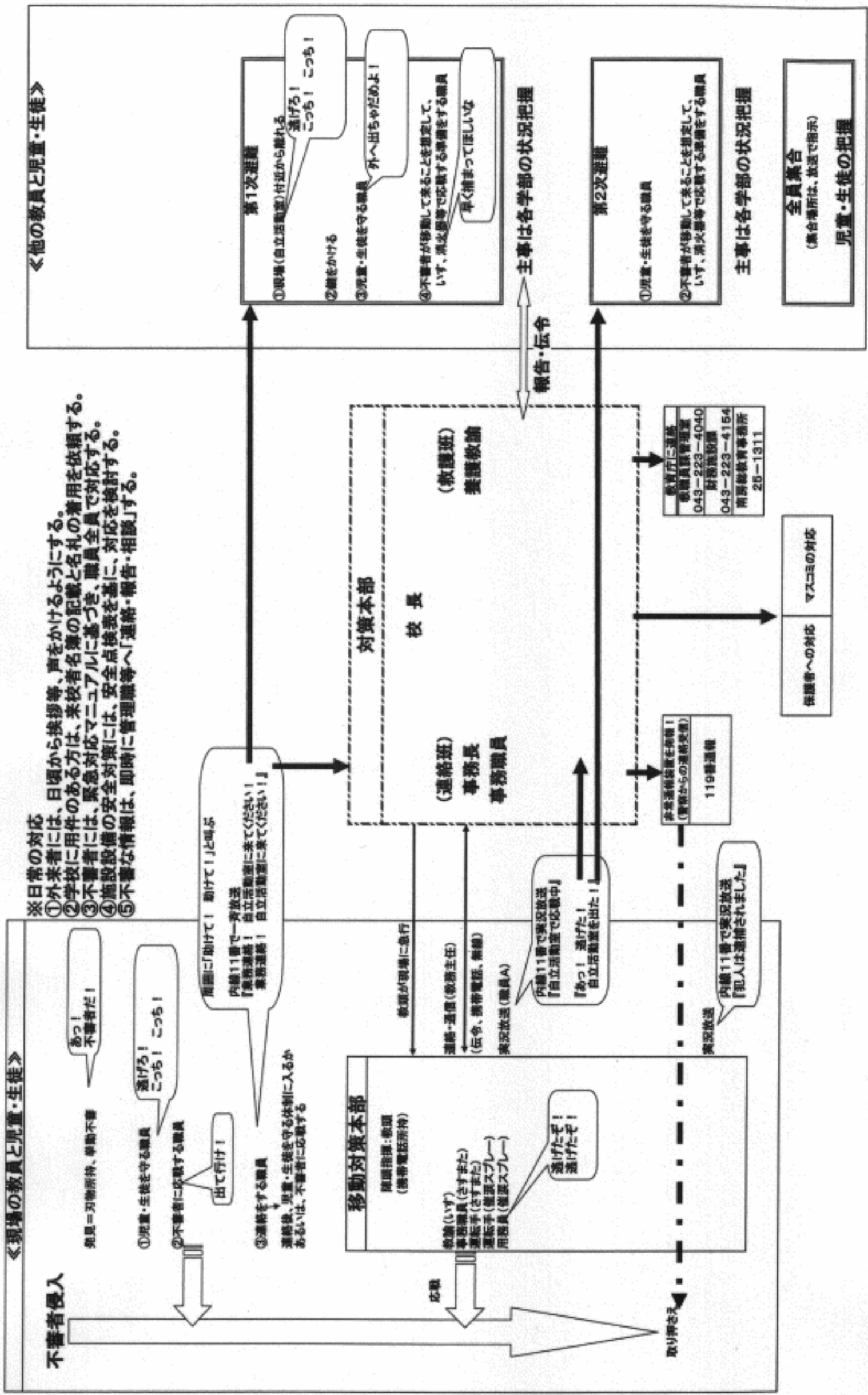
※各項目を5段階で評価（未対応は0点、検討のみは1点、対応したものや対応可能なものはそのレベルに応じて2点から5点で評価）

※学校における危機は、多様により想定ができる。

事前に準備できることを把握し（できる限りの準備をする）、実際に起こってから実行できるように心がけておくことが重要である。

6 緊急対応マニュアルの例

《①不審者侵入の危機》



[illegible]

※保護者が送って来られる児童生徒は、保護者の車両で登校

※保護者が送って来られない児童生徒は、職員の車両で代替輸送

A/ス枠	保護者・生徒
B/ス枠	保護者・生徒
C/ス枠	保護者・生徒
D/ス枠	保護者・生徒
E/ス枠	保護者・生徒
F/ス枠	保護者・生徒
G/ス枠	保護者・生徒
H/ス枠	保護者・生徒
I/ス枠	保護者・生徒
J/ス枠	保護者・生徒

教育中心通話	
教職員管理室	
043-223-4040	
財務部設備課	
043-223-4184	
所務課設備管理所	
26-1311	

保護者への対応	マスコミの対応
---------	---------

7 危機発生時のチェック表(登下校時の事故・事件)

①発生状況の掌握・通報

1 第一報受信 誰からの情報 から

連絡先は？

事件・事故内容	第一発見者	
	発生日時	平成 年 月 日() 時 分
	発生場所	
	当事者	
	事件・事故内容	
	けが人の有無	有・無
	けがの程度	意識 有・無 呼吸 有・無 歩行 可・否 出血 有・無 骨折 有・無
	全体への周知	非常放送・あとで間に合う

2 現場へ急行するのは誰？ 校長・教頭・教務・事務長・養護教諭・その他

3 現場との中継者は誰？

4 救急車の要請は？ 不要
必要→→→ 119番通報 (時 分)
救急車の誘導は誰が行なう？ ()

5 警察の要請は？ 不要
必要→→→ 非常通報装置 (時 分)
110番通報 (時 分)
パトカーの誘導は誰が行なう？ ()

6 病院搬送の要請は？ 必要・不要 時 分に 病院に連絡した

7 タクシーの要請は？ 必要・不要 時 分に タクシーに連絡した

②救護・通報・搬送

8 負傷者の救護

負傷者氏名	年齢	歳	男・女
けが・病気の状態			
血液型	既往症		

9 保護者・家族への連絡

家族へ連絡 (責任者)	済・未済 誰に連絡がとれたか 父・母・兄弟姉妹・祖父・祖母・配偶者 すぐに来れるか
住 所	
電 話	
その他	

10 搬送される病院は？ 病院名
住所
電話

11 付き添いは誰？ 養護教諭・その他()

12 付き添いの連絡方法は？ 携帯電話→→ 職員緊急連絡一覧に掲載してあるか？
テレホンカード
小銭

13 教育庁への報告 教職員課管理室 043-223-4040
特別支援教育課 043-223-4045
財源施設課施設室 043-223-4154
南房総教育事務所 0438-25-1311

③事後対応

14 自衛警備強化

時 間 帯	場 所	担当者	担当者	内 容

15 警察との連携 巡回要請
連絡協議

16 教育庁との連携 教職員課管理室
特別支援教育課
施設課施設管理室
南房総教育事務所

※ 救急車の呼び方

TEL 119

- つながったら、「救急です」という。
- 「〇〇市△△1丁目1番地、〇〇学校です」
- 「〇年生の男子、女子が」「いつ」「どこで」
*何分前に、トイレで、階段でなど
「どうなった」 *倒れて意識を失っている、チアノ
ーゼを起している、など具体的に。
- 現在行っている救急処置を報告する。
*人工呼吸をしている、とか
- 次に何をしたらよいか、指示を受ける。
- 学校の近くに来たら、サイレンを止めてもらうよう依頼する。(他の生徒たちの混乱を防ぐため)
- 必ず、誰かが救急車を出迎え、現場へ誘導する。

8 ☆素朴な疑問☆

私たちが実際に体験した事柄を通して感じた疑問について、千葉県警察本部に回答をいただきました。

Q 1 門扉を閉鎖して不法侵入車両の進路を塞ぐことの適否

A. 学校への不法侵入事案対策は、「児童生徒の安全確保」を最優先に考えることが必要です。質問は、学校への不法侵入者が校外に逃走することを防止する趣旨によるものと思われますが、校門を閉鎖すれば、不法侵入者は校内に止まることを余儀なくされ、児童生徒のいる校舎内に向かうことも予想されません。

不法侵入車両の逃走防止のため、施設管理権に基づいて校門を閉めること自体に問題はないと思われますが、学校の安全対策上は、児童生徒の安全確保を最優先に考慮することが必要であり、校門を閉める場合は、児童生徒や教職員等の安全が確保されているか、犯人が危害を加えるおそれはないか等を総合的に判断すべきと思われます。

いずれにせよ、学校に不法侵入者（車両）が侵入した場合は、児童生徒の安全確保と速やかな警察への110番通報を最優先に考えていただきたいと思います。

Q 2 不法侵入者の写真を撮影することは、肖像権侵害に当たるか

A. 人には、その承諾なしに、みだりにその容ぼう、姿態を撮影されない「肖像権」がありますが、肖像権はいかなる場合においても認められるものではなく、一定の制限があるというのが通説です。

学校管理者が、その施設管理権に基づき、児童生徒や職員の生命、身体の安全を確保するため、あるいは学校施設等の財産を守るための措置として防犯カメラを設置することは、設置の目的、必要性から考えて妥当と思われますが、肖像権侵害を防止するため、

- 防犯カメラの撮影対象区域は、設置目的の達成に必要最小限の範囲とする。
- 校門等の見やすい場所に「許可を得た者以外の立ち入りを禁止する」、「防犯カメラを設置している」旨を表示する。
- 撮影した映像や画像の目的外利用を防止する等の運用基準を定めておく。

などの措置に配慮することが必要と思われます。

Q 3 職員が柔剣道の有段者の場合、暴力を振るわれて応戦することの適否。正当防衛と過剰防衛の基準は？

A. 刑法上の「正当防衛」とは、急迫不正の侵害に対して自己または他人の権利（生命、身体、財産等を含む）を防衛するため、やむを得ず行った行為をいいます。

例えば、不法侵入者等が襲いかかって来た場合に、自分自身、あるいは周りにいる教職員や児童・生徒等の生命や身体に対する危害を防止するため、これに応戦する場合などが考えられます。

応戦行為によって相手方に怪我を負わせた場合、通常であれば傷害罪という犯罪行為に該当しますが、その行為が正当防衛に当たると判断された場合は、違法性を欠くため、犯罪は成立しません。犯罪が成立するためには、その行為に「違法性」があることが必要とされるためです。

しかし、正当防衛が認められるのは、あくまでも、危険な状態が続いている場合であり、判例では、相手の攻撃が終わっているのにさらに追撃する行為や、相手を一撃で倒した後、なおも殴り続ける行為などについて、正当防衛の限度を超えた過剰防衛であると判示しているケースもあります。

正当防衛が成立するためには、このほかにもいくつかの要件があり、防衛のためにとった手段が正当防衛の要件を充たしているか否かについては、個々のケースにより具体的に判断されることとなりますが、過去の裁判例等からみると、「相手の攻撃の程度に対し、防衛の手段が相当といえる範囲内であるか」が判断基準となり、防衛行為が明らかに必要と認められる限度を超えていれば、過剰防衛を問われることとなります。

したがって、職員が柔道の有段者であっても、相手が素手なのか刃物を持っているのか、体格は大きい小さいか、男性なのか女性のかなど、彼我の力関係によって「相当」といえる応戦の程度も異なるため、一概には言えませんが、素手で体格も劣っている相手に対して柔道技を用いて過剰な攻撃を加えたり、危険な状態が終わっているのに、なお執拗に攻撃を加えたりする行為は、過剰防衛を問われる場合もあると思われます。

いずれにせよ、相手の様子（人数、性別、体格、凶器所持の有無等）に応じてどのような対応が妥当であるかを日頃から検討しておくことが必要と思われます。

9 さすまたを使った研修

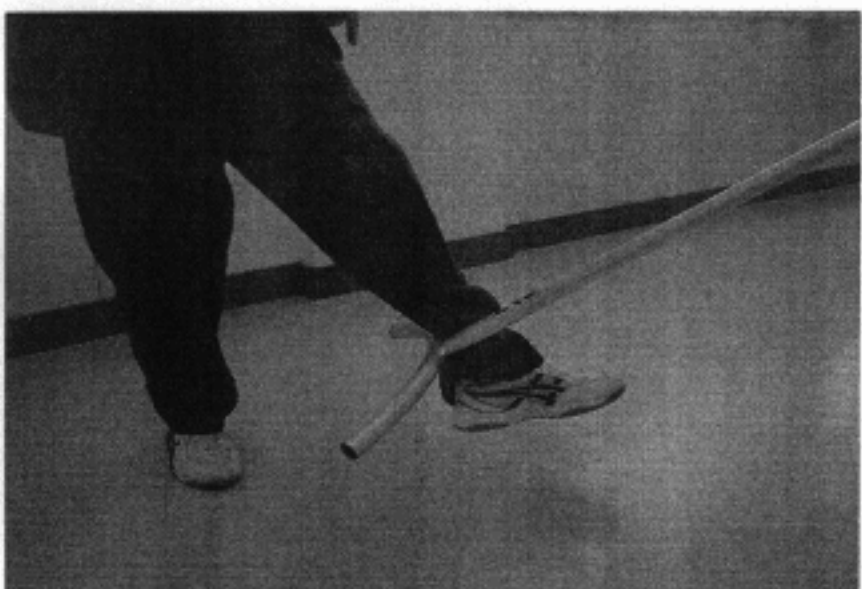
実際にいろいろな場面を想定して、さすまたを使った研修会を行いました。警察官の指導を受けながら各自がどのように使用すればよいかを実際に体験し、また、有効な使用方法についても考えました。



顔面を狙うと相手はひるむ



肩から脇に掛けると、さすまたを取られにくい



足をすくって転倒させる方法もある

参考 防犯グッズ

ア 防犯ブザー

助けを求めるときにとっても役立つ。



イ 催涙スプレー

強烈な刺激等で相手がひるんだすきに逃げる



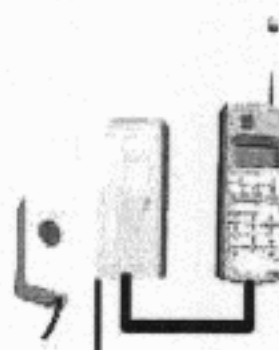
ウ さすまた

相手の攻撃を防ぐ



エ 非常通報システム

ボタンを押すことにより自動的に警察に通報するシステム
(千葉県内全校設置済)



オ 防犯カメラ

不法侵入者をチェックする



カ 捕獲網発射器

不審者の動きを封じる



10「精神疾患・精神障害者の理解と対応」研修概要

期 日：平成16年11月29日（月）
会 場：千葉県立君津高等学校 応接室
講 師：君津健康福祉センター 精神保健福祉課（現：地域保健福祉課）
研修内容：以下のとおり（Q&A方式）

（Q1）明確な線引きはないかもしれないが、人格障害と精神疾患・精神障害者の違いは？（素人では、精神疾患・精神障害者と人格障害者と同一視してしまう）

（A1）人格障害者、精神疾患、精神障害者を、包括して「精神障害者」と呼ぶ。

人格障害者は10の分類がある。

- ①反社会性（境界性・自己愛性・演技性・反社会性）
- ②非社会性（依存性・回避性・脅迫性・遭遇性）
- ③脱社会性（妄想性・分裂病質）

（Q2）精神疾患と精神障害は今まで調べてきて違うものなんだと、なんとなくわかってきたが、違いについて詳しく教えていただきたい。

（A2）精神疾患を有するものが精神障害者

（精神障害者とは「精神分裂病（統合失調症）、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質、その他精神疾患を有する者」
精神保健福祉法第5条）

（Q3）電話、窓口での対応について

- ①話し方の留意点は？
- ②好ましい話し方は？
- ③言ってはいけないこと、やってはいけないことは？
- ④長い話（意味不明な話など）を、上手に打ち切る対応は？
- ⑤繰り返し電話がかかってこないような対応は？

（A3）電話、窓口対応時のポイント

電話も、窓口も同じよう対応すればよい

但し、窓口の面接とちがって、電話では（相手の姿が見えないため）分かりづらい。

電話は、相手が伝える手段として選択しているものであり、相手の土俵になっ

てしまう。

- ①外観、声調をさりげなく観察する。
- ②何を伝えたいのか、よく聞く。
- ③特別な目でみるのではなく、1人の社会人（生活者）としてみる。
- ④学校として受け入れられることなのか、無理なのか（無理はしない）判断
- ⑤家族、KEY PERSONをできるだけ把握し必要時連絡をとる。

（Q4）どんなときに警察署に110番通報してよいか？

（A4）自傷行為（リストカットなど）、他害行為の時

（Q5）こちら（学校）を理解してもらうにはどうしたらよいか。

（A5）相手の理解力によるが、学校としてできること、できないことをはっきり伝える。

（Q6）精神疾患・精神障害者の犯罪行動として、具体的にどういうものがあったか？

（A6）①放火 ②殺人 ③強姦 ④強盗 ⑤器物破損やストーカー行為など
判断能力、責任能力があるかどうか問われる。

（Q7）精神疾患・精神障害者の中で、犯罪に結びつく行動をするケースはごく一部のようだが、精神疾患・精神障害者の分類上（分類方法の一つではないようだが）で、そういう行動を起こしやすいものはどういうものか？

（A7）犯罪発生率では、一般の健常者0.25%に対して、精神障害者は0.09%と低い率である。再犯率も、一般の健常者よりも低い。
精神障害者であるからといって、犯罪を起こしやすいというものではない。

（Q8）社会復帰をするために、どのような対応をしていますか？

（A8）①適切な医療（医）②職業：就労（職）③住む所（住）④友人がいること

（Q9）私たちができること、やらなくてはならないことを教えてください。

（A9）自分のプライドが傷つけられたときにおかしくなる。

①普通の人（健常者）と同じ対応をする。【精神障害者も孤立化させない。私たちも孤立化しない】

②（職員が、家族が、友人が）様子がおかしくなったことを（周囲が）早めに気づき、適切な医療を受けること。

【危機管理の哲学】

自分で変えることのできないものを受け入れる・・・謙虚
自分で変えることのできることを変えていく・・・勇気
両方の違いを見分けることのできる力・・・知恵

－おわりに－

この研究を進める中で、国内外で、新しい事例のニュースが入ってくるたびに、新たな検討すべき項目が増え、危機管理の難しさとその必要性を強く実感しました。

危機管理にとって最も重要なことは、日々の備えであり意識です。急速に変化する時代の流れを早くとらえ、強い意識をもって取り組むことではないでしょうか。「そこまでは必要はない」、「そんなことは起こらないだろう」と考える心の隙間に、危機は発生します。私たちの心の中にこそ危機管理はあります。危機管理とは意識づけの連続とも言えるかもしれません。

また、防犯設備などのハード面だけに頼るのではなく、職員相互や関係機関との日頃のコミュニケーションや、危機発生時にいかに迅速に、正確に情報を伝達できるかというソフト面も非常に重要なことであると感じます。

学校における唯一の行政担当職員として、また学校全体を総合的に見つめることができる職員として、事務職員の立場から、児童生徒の安全のために、学校における「危機管理」に大きな役割を果たしてまいりたいと思います。今回発表した内容では、すべての危機を網羅することはできませんでしたが、それぞれの現場での危機管理マニュアルの作成やマネジメントサイクルの実践、個々の危機管理の業務に際しての参考になれば幸いです。

《参考文献》

- ・子どもを守る学校の危機管理ガイドライン（教育開発研究所）
- ・学校事件 そのアカウンタビリティ（ぎょうせい）
- ・精神科リハビリテーション学（へるす出版）
- ・図解リスクマネジメント（東洋経済新報社）
- ・リスクマネジメント研修資料（職員能力開発センター）

《主な通知文等》

- ・学校への不審者侵入時の危機管理マニュアル（文部科学省）
- ・生徒の安全確保及び学校の安全管理について（依頼）
平成12年1月17日付け 教指1100号
- ・「児童虐待の防止に関する法律」について
平成12年6月19日付け 教総163号
- ・幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理についての点検項目（例）の改定について（通知）
平成13年9月11日付け 教指1083号
- ・学校等における安全管理対策について
平成13年9月25日付け 教総301号

- ・幼児児童生徒の安全確保及び安全管理について（依頼）
平成15年5月14日付け 教保126号
- ・海外修学旅行の安全確保について（通知）
平成15年7月18日付け 教指742号
- ・幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理の一層の徹底について（通知）
平成15年10月3日付け 教保378号
- ・幼児児童生徒の安全確保及び学校安全管理の一層の徹底について（依頼）
平成15年12月15日付け 教保456号
- ・幼児児童生徒の安全確保に関わる取り組みについて（依頼） 平成16年1月7日付け 教保479号
- ・「学校安全アピールー子供の安全を守るためにー」について 平成16年1月22日付け 教保号外
- ・学校の安全確保のための施策等について（通知）
平成16年2月24日付け 教保517号
- ・千葉県災害対策本部南房総支部運営要綱の制定について（通知）
平成16年3月29日付け 君支（総）87号の2
- ・幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理の一層の徹底について（通知）
平成16年6月30日付け 教保216号
- ・「幼児・児童・生徒の安全確保及び学校の安全管理について（通知）
平成17年2月18日付け 教保512号
- ・学校等における安全管理要綱

千葉県公立高等学校事務職員会 君津支部研究グループ

天羽高等学校	副主査	伊藤 幸代
君津商業高等学校	副主査	渡邊 陽一
木更津高等学校	副主査	町田 美智子
君津高等学校	副主査	角田 良一
袖ヶ浦高等学校	主任主事	大貫 和憲
君津青葉高等学校	副主査	草刈 真由美
君津養護学校	副主査	溝口 峰子
（現）安房博物館	庶務課長	宇津木 規之
（現）市原高等学校	主査	山田 真理子
（現）千葉高等学校	主査	増田 一美
（現）木更津県税事務所	副主査	岡田 好正
（現）財団法人千葉県教育振興財団	副主査	守 誠
（現）南房総教育事務所	副主査	森田 勝利
（現）船橋高等学校	主事	小笠原麻衣子